

# 平成29年度 事後事務事業評価シート

事業名	「シェアリング北海道」プロジェクト事業（田学連携事業）	担当課・グループ	作成者（職・氏名）
		まちづくり推進課・総合戦略グループ	主幹 小山敏史

## 1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成27年度	事業主体	会計区分	予算科目		
	事業終了年度	平成32年度	厚真町・北海道田舎活性化協議会	一般	201	06	988
事業の性質	法令に基づかない自主的事業			条例等の有無	無		
根拠法令・例規 計画等							
総合計画	基本目標	みのり豊かなあつま					
	基本施策	商工業の振興					
	施策項目	雇用機会の確保					
	※総合戦略	みのり豊かなあつまー商工業の振興ー”あつま”で育った子どもたちが地元に戻って活躍できる環境づくり					

## 2 事業概要 (Plan)

事業の目的	平成27年度から開始した田学連携事業での新得町との連携を母体に地域特性の異なる道内5町（厚真町・新得町・鹿部町・上川町・浦河町）が4つプロジェクトに「部分連合的」に取り組む他、事業運営組織として「北海道田舎活性化協議会」を設立し、各種情報発信や共同イベントを開催、移住・交流分野に限らず幅広い分野での連携事業を推進する。当町が取り組むプロジェクトは前年度から継続して「田学連携事業」となる。
事業の内容 (手段・方法等)	<p>（共通事業）北海道田舎活性化協議会により「+HOKKAIDO Club」という会員組織を構築、移住検討者や北海道ファンで構成する一般会員の他、企業会員を募集、会員向けにHPやメルマガ、ラジオを中心とした情報発信事業を展開する。</p> <p>（田学連携）①大学・企業との連携による「インターンシップ受け入れ」事業 ②大学、団体との連携による「知恵の輪」事業 ③「大都市学生へのアプローチ」事業</p>
対 象	（共通事業）都市部に在住し地方への移住を検討されている方 （田学連携）都市部の大学生
成果目標	（田学連携）都市部からのUターン者の移住・定住者数 平成32年度 10人

## 3 実施結果 (Do)

### ① 事業費

単位：千円

事業費の推移		26年度実績 (評価対象前々年度)	27年度実績 (評価対象前年度)	28年度実績 (評価対象年度)	29年度予算 (評価実施年度)	適 用
総事業費		0	10,733	2,853	3,350	「田学連携事業」としての事業費
事業費		0	7,973	783	1,280	
特定財源	国・道支出金	0	7,972	405	0	
	町債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	0	1	378	1,280	
人件費 (@4,000*時間数)		0	2,760	2,070	2,070	事務事業時間配分計算表（別紙）により算定
事業費の 主な内訳	旅 費	0	1,251	500	876	
	需用費	0	136	0	20	
	役務費	0	28	0	0	
	委託料	0	6,378	0	184	
	負担金補助 及び交付金	0	0	283	250	北海道田舎活性化協議会負担金 H28:300千円 H29:50千円

## ② 実績・成果

指標名称			26年度(実績)		27年度(実績)		28年度(見込)		32年度	
			(評価対象前年度)		(評価対象年度)		(評価実施年度)		(目標年度)	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主な活動指標	インターンおよび知恵の輪事業での参加学生数	目標	0	人	25	人	25	人	75	人
		実績	0	人	17	人	15	人		人
		達成度		%	68.0	%	60.0	%		%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する ※H27については「田学連携事業」での実績を転記			【目標】 インターン:15 知恵の輪:10		【実績】 インターン:7 知恵の輪:10		【実績】 インターン:8 知恵の輪:7		H28~H32 累計
主な活動指標	「+HOKKAIDO Club」 会員数(有料・無料会員数)	目標	0	人	0	人	1000	人	3,000	人
		実績	0	人	0	人	1037	人		人
		達成度		%		%	103.7	%		%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する ※H27については「田学連携事業」での実績を転記									H28~H32 累計
主な成果指標	都市部からのUターン者の移住・定住者数	目標	2	人	2	人	2	人	10	人
		実績	0	人	1	人	0	人		人
		達成度	0.0	%	50.0	%	0.0	%		%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する									H28~H32 累計

## 4 事業の評価 (Check)

評価項目	評価の視点	評価結果	説明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か?	B	田学連携事業の事業目的は妥当であるが、取組団体は当町と新得町だけであり、現段階では広域での連携体制を構築する意味合いが低い。
有効性	期待された成果が得られたか?	B	田学連携事業では、よりUターンに繋がるように、民間企業の参画を促進する仕組みの構築が必要となる。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か?	B	交付金活用が前提の予算構成となっており、財源確保無で継続して実施するためには計画及び取り組み内容の検討が必要。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

## 5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続(縮小)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持
理由	田学連携事業については現状では当町のみでも大学、団体等の連携体制を維持できる状況にある。本プロジェクトで設立した「田舎活性化協議会」については田学連携事業と切り離し、定住促進事業の一環として継続する。				
課題および改善提案	田学連携事業についてはUターン者の獲得に向けて民間事業者との連携体制を確立するとともに学生と厚真町との接点を構築する手段として大学、団体との連携事業を継続して実施していく。継続実施を可能とするためには財源確保の他、学生への旅費支給額など経費面での見直しを継続して行っていく。「田舎活性化協議会」については連携効果を明確にすること、有料会員獲得など自走できる運営体制を構築することが継続するための必須条件となる。				

※予算・サービスは「継続(拡大・現状維持・縮小)」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

## 6 評価(本欄は、理事者ヒアリング・内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください)

予算	継続(縮小)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持
意見	移住・定住関連事業とどのように連携しているのかが分かりにくいので、体系的に整理をすること。				

7 外部評価委員会評価結果

予算	継続（現状維持）	サービス	継続（現状維持）	方向性	拡大
附帯意見	—				
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚真町は農業の町なので、酪農大学の学生に農業体験をしてもらうなど、農業を絡めた大学等との連携をしてみてはどうか。</li> <li>・町として、インターンシップ生に何を求めるのか（U・ターンを求めているのか、大学等の交流を求めているのか、など）を整理しないと、大学等としても動きづらいのではないかと。</li> </ul>				

評価に対する町の考え方

・町としてインターンシップ生に何を求めるのかについては、産業経済課と連携し町内企業や団体、事業主の現況や求人状況などの情報を整理したうえで、大学等へ具体的な提案ができるように取り組みます。